

# 富士川水系工事実施基本計画と富士川水系河川整備基本方針（案） 比較表

平成14年10月17日

国土交通省河川局

富士川水系工事実施基本計画と富士川水系河川整備基本方針（案）の比較表

富士川水系工事実施基本計画	富士川水系河川整備基本方針（案）
<p style="text-align: center;">富士川水系工事実施基本計画</p> <p style="text-align: center;">目 次</p> <p>1．河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 . . . . . 1</p> <p>2．河川工事の実施の基本となるべき計画に関する事項 . . . . . 1 0</p> <p>（1）基本高水ならびにその河道及び洪水調節ダムへの配分に関する事項 . . . . . 1 0</p> <p>（2）主要な地点における計画高水流量に関する事項 . . . . . 1 1</p> <p>（3）主要な地点における流水の主要な機能を維持するため必要な流量に関する事項 . . . . . 1 3</p> <p>3．河川工事の実施に関する事項 . . . . . 1 4</p> <p>（1）主要な地点における計画水位、計画横断形、その他河道計画に関する重要な事項 . . . . . 1 4</p>	<p style="text-align: center;">富士川水系河川整備基本方針（案）</p> <p style="text-align: center;">目 次</p> <p>1．河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 . . . . . 1</p> <p>（1）流域及び河川の概要 . . . . . 1</p> <p>（2）河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 . . . . . 5</p> <p>2．河川の整備の基本となるべき事項 . . . . . 8</p> <p>（1）基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 . . . . . 8</p> <p>（2）主要な地点における計画高水流量に関する事項 . . . . . 9</p> <p>（3）主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項 . . . . . 1 0</p> <p>（4）主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項 . . . . . 1 1</p> <p>（参考図）富士川水系図 <span style="float: right;">巻末</span></p>

富士川水系工事実施基本計画と富士川水系河川整備基本方針（案）の比較表

富士川水系工事実施基本計画	富士川水系河川整備基本方針（案）
<p>1．河川の総合的な保全と利用に関する基本方針</p> <p>富士川水系は、その源を山梨、長野県境の駒ヶ岳に発し、大武川、塩川、御勅使川等を合わせて、甲府盆地を南流し、山梨県西八代郡市川大門町において笛吹川を合わせて再び山間部に入り、早川、波木井川、芝川等を合わせて静岡県富士市において駿河湾に注ぐ。その流域面積は長野県、山梨県の及び静岡県にまたがり、面積は、3,990km<sup>2</sup>に及び山梨県並びに静岡県、中東部地区における社会・経済・文化の基盤をなし、本水系の治水と利用についての意義はきわめて大きい。</p>	<p>1．河川の総合的な保全と利用に関する基本方針</p> <p>(1) 流域及び河川の概要</p> <p>富士川水系は、その源を山梨県北巨摩郡白州町と長野県諏訪郡富士見町境の駒ヶ岳（標高2,685m）に発し、途中多くの支流を合わせながら山間渓谷部を抜け、甲府盆地を南流し、盆地の南端山梨県西八代郡市川大門町において笛吹川を合わせて再び山間渓谷部に入り、静岡県富士市と庵原郡蒲原町の境において駿河湾に注ぐ、幹川流路延長128km、流域面積3,990km<sup>2</sup>の一級河川である。</p> <p>その流域は長野県、山梨県及び静岡県の3県にまたがり、豊かな自然環境を有しており、富士川と周囲の山々が醸し出す風情は、急流と清流が相まって、優れた景観美を造り、その流れは県内外の人々に憩いと安らぎを与え、広く愛されている。流域内の代表的な都市は、甲府盆地内の甲府市並びに河口部の富士市及び沼津市があり、山梨県及び静岡県の中東部地区における社会、経済、文化の基盤をなしており、本水系の治水、利水、環境についての意義は極めて大きい。</p> <p>富士川は、流域の約90%が急峻な山地で、3,000m級の山々に囲まれた日本を代表する急流河川であり、河道はレキ河原を呈している。</p> <p>流域の西側を日本列島を東西に分割する大断層系魚川～静岡構造線が走っている。このため、流域は極めてもろい地質構造になっており、崩壊地が多く、豪雨とともに崩壊土砂が河道に流出し、流れの緩やかな所に堆積している。</p> <p>甲府盆地周辺の南アルプス、八ヶ岳、秩父山地を擁している上流部は、富士川、笛吹川をはじめとして、御勅使川、荒川などによる扇状地とともに、天井川が形成されたところに市街地が発展している。これら数多くの川は甲府盆地南端の禹之瀬で全て富士川に集まっている。また、扇状地が発達した甲府盆地では、豊富な地下水帯水層を形成している。</p>

富士川水系工事実施基本計画と富士川水系河川整備基本方針（案）の比較表

富士川水系工事実施基本計画	富士川水系河川整備基本方針（案）
	<p>上流部の山々は、コナラ、ミズナラ、ブナ等の自然植生が残され、数多くの川は、四季折々の山岳渓谷美に富んだ清流となって、岩肌を削りながら流下している。清流の礫質河床を産卵場とするカワヨシノボリ、カジカなどの魚類や渓流にはヤマセミなどの鳥類が生息するほか、河原では砂礫地に生息するカワラヨモギやハリエンジュの群落などが点在している。また、笛吹川と合流する地点より上流の富士川は、淵を地域では釜と呼び、釜がないことから、釜無川と呼ばれるようになったといわれ地域に親しまれている。</p> <p>禹之瀬からの中流部は、途中早川を合わせ、急峻な山地の間を縫うように蛇行を繰り返して流下しており、岩肌と川面が織りなす自然豊かな景観となっている。連続する瀬や淵などには、瀬を産卵場とするアユ、ウグイなどの魚類や、崖を巣とするカワセミなどの鳥類が多く生息している。沿川の限られた平地には堤防がなく、宅地や農地が集中している。</p> <p>さらに、脆弱な山地が迫っているため、いったん豪雨になると、富士川と平行して走っている国道52号は通行止めとなり、水防活動や河川巡視などの支障となっている。</p> <p>富士市に入ったあたりから河口までの富士山を一望できる下流部は、再び扇状地が発達した天井川となった所に市街地が発展している。河口部は約 2,000m の広大な川幅を有し、低水路部は多列砂州を形成し、砂礫地、海浜性砂丘、干潟や湿地などの多様な環境が見られ、そこには、砂礫地を繁殖場として利用するコアジサシ、干潟を餌場とするシギ、チドリや水際の樹林地を集団分布地、越冬地として利用するカワウ、カモ類等、多くの鳥類が生息するほか、干潟や湿地にはマコモ、ヨシなどが群生している。また、魚類ではウナギ、シロウオなどの回遊性魚類が生息している。</p>

富士川水系工事実施基本計画と富士川水系河川整備基本方針（案）の比較表

富士川水系工事実施基本計画	富士川水系河川整備基本方針（案）
	<p>富士川は、万葉集に詠まれるなど、人とのかかわりが古くから記され、平家物語には富士川合戦の様子も記されている。江戸時代には、漁夫が投網をしている様子を葛飾北斎が描いた浮世絵「富嶽三十六景」に登場している。また平安時代から始まり、武田信玄の時代には盛大に挙行された御幸祭りは、一宮町の浅間神社から竜王町の三社神社まで御輿を運び、堤防を踏み固める動作で練り歩くものであるが、現在も毎年4月15日に信玄堤で行われている。また、中下流部では江戸時代から続く川供養の火祭りが行われ、夏の風物詩となっている。このように、富士川は、流域の歴史・文化に深くかかわっている。</p> <p>日本を代表する急流河川の富士川は、古くから水害に悩まされ、武田信玄が、甲府盆地を水害から守るため築いたとされる信玄堤や万力林などの霞堤や水害防備林などによる独自の治水工法が施されてきた。また、下流部においても、江戸時代の代官である古郡が三代に渡って完成させた雁堤がある。これらの施設は、現在においても、治水機能を発揮している。また、江戸、明治時代の富士川は、米、塩を中心とする物資を運ぶため、また人々の足として舟運が盛んに行われていた。</p>

富士川水系工事実施基本計画と富士川水系河川整備基本方針（案）の比較表

富士川水系工事実施基本計画	富士川水系河川整備基本方針（案）
<p>治水事業の沿革は、明治7年第一期工事を施工し、同31年に至って完成を見たが、明治40年、同43年の洪水により直轄事業第一期河川とし、清水端及び松岡における計画高水流量をそれぞれ5,600m<sup>3</sup>/sec及び9,800m<sup>3</sup>/secとする改修計画を決定し、大正10年から工事に着手し、富士川下流部については左岸築堤と河床掘削を主体とした旧堤拡築を行いほぼ完成し上流部については富士川、笛吹川、芦川の合流を調整するため新笛吹川を開削し、低水路の掘削、築堤を行って河道を修正し、水衝部等に護岸、水制を施工して昭和5年に通水をみた。笛吹川については、その後本格的に築堤、護岸等を行い河道を掘削、修正した。浅原から上流の富士川については、昭和7年から霞堤方式による築堤及び河道の掘削修正を行い、ほぼ全川にわたり護岸・水制を施工している。富士川中流部については昭和33年から霞堤方式による築堤、護岸等を行っている。さらに昭和34年8月洪水等の近年における出水の状況並びに流域の開発等にかんがみ、昭和49年に基準地点清水端及び北松野における基本高水のピーク流量を8,800m<sup>3</sup>/sec及び16,600m<sup>3</sup>/secとする現計画を決定した。なお、補助事業として静岡県で施工した沼川水系支川潤井川から富士川への分流を行う星山放水路の完成にともない昭和49年に沼川水系を富士川水系に編入した。</p> <p>砂防事業としては、直轄事業として明治16年に富士川上流（釜無川）支川、小武川、御勅使川及び中流支川の早川、大柳川について着手したが、戦争等の都合により2回にわたり約18年間途中工事を中断したが、昭和21年から事業が再開され、特に昭和34年7号及び15号台風による未曾有の大災害にかんがみ、富士川上流（釜無川）及び早川について施工している。また、潤井川上流については富士山の大沢くずれ対策事業を昭和44年から実施している。</p>	<p>富士川水系の治水事業については、明治40年、同43年の洪水により、清水端及び松岡における計画高水流量をそれぞれ5,600m<sup>3</sup>/s及び9,800m<sup>3</sup>/sとする改修計画を決定し、大正10年から直轄事業として工事に着手した。富士川下流部、上流部及び笛吹川においては、河道掘削を行い築堤、護岸等を施工した。さらに、昭和33年から富士川中流部において築堤、護岸等を施工した。</p> <p>昭和34年8月洪水等の状況、流域の開発等にかんがみ、昭和49年に基準地点清水端及び北松野における基本高水のピーク流量をそれぞれ8,800m<sup>3</sup>/s及び16,600m<sup>3</sup>/sとし、これを計画高水流量として改定した。さらに、静岡県が施工した沼川水系支川潤井川から富士川への分流を行う星山放水路の完成に伴い昭和49年に沼川水系を富士川水系に編入した。</p> <p>昭和57年8月台風10号による洪水では、堤防の洗掘、内水地区の湛水、無堤地区での浸水等に加え、局所洗掘により東海道本線富士川鉄橋等橋梁の流失も発生した。また崩壊土砂が河道に流出し著しく堆積した。</p> <p>砂防事業については、直轄事業として明治16年に富士川上流（釜無川）支川、小武川及び御勅使川並びに中流支川の早川及び大柳川について着手した。特に昭和34年7号及び15号台風による未曾有の大災害にかんがみ、富士川上流（釜無川）及び早川について施工している。また、潤井川上流については富士山の大沢くずれにおける砂防事業を昭和44年から直轄事業として実施している。</p> <p>また、東海地震に係る地震防災対策強化地域として、昭和54年及び平成14年に、静岡県全域と山梨県のほぼ全域が指定され、富士川流域のほとんどがそれに含まれている。一方東名高速道路、中央自動車道、中部横断自動車道、東海道新幹線など東京と関西方面等を結ぶ幹線交通機関は、すべて富士川を横架している。</p>

富士川水系工事実施基本計画と富士川水系河川整備基本方針（案）の比較表

富士川水系工事実施基本計画	富士川水系河川整備基本方針（案）
<p>河川の利用については、農業用水として約22,500haに及ぶ耕地のかんがいに利用されている。また水力発電として明治31年に建設された芝川製紙発電所を初めとし、現在60箇所による総最大出力約389,000kwの電力の供給が行われ、さらに上水道用水及び工業用水として最大約14m<sup>3</sup>/secを山梨県及び静岡県に対して供給が行われている。</p>	<p>河川水の利用については、急峻な地形を利用して、明治後期から水力発電による水利用が活発に実施されてきた。</p> <p>現在、富士川の河川水は、農業用水として約38,000haに及ぶ耕地のかんがいに利用されており、また、発電用水として69箇所の水力発電所で使用され、総最大出力約433,000kWの電力供給が行われている。中流部の発電用水は、富士川水系に戻らず直接駿河湾に注いでいる。なお、塩之沢堰<small>しおのさわ</small>及び十島堰<small>としま</small>では、発電取水していたものを昭和58年からかんがい期5.0m<sup>3</sup>/s、非かんがい期3.0m<sup>3</sup>/sを下流に放流している。また、天井川を形成している上流部では、湯水時において河川水が伏没し瀬切れを起こしている。また、甲府盆地内及び河口部での都市用水は、地下水が多く利用されている。</p> <p>水質については、富士川本川上流、中流及び下流では、BOD75%値は、環境基準値をおおむね満足している。また、笛吹川と甲府盆地の市街地を流れている支川などは、BOD75%値が環境基準値を満足していない箇所もある。</p> <p>河川の利用状況については、関係機関や地域住民との連携により、ポート大会、花火大会等が行われ、広く親しまれている。また、河川清掃等の河川環境の保全の取組もなされている。</p>

富士川水系工事実施基本計画と富士川水系河川整備基本方針（案）の比較表

富士川水系工事実施基本計画	富士川水系河川整備基本方針（案）
<p>本水系における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、河川工事の現状、砂防、治山工事の実施、水害発生状況及び河川利用の現状（水産資源の保護及び漁業を含む）並びに河川環境の保全を考慮し、また関連地域における社会経済情勢の発展に即応するよう東駿河湾地区工業整備特別地域整備基本計画、首都圏整備計画、中部圏開発整備計画等との調整を図り、かつ土地改良事業及び下水道事業等の関連工事並びに既存の水利施設等の機能の維持を十分配慮して、水源から河口まで一貫した計画のもとにしばしば水害が発生している地域についての対策を重点として次のように工事を実施するものとする。</p> <p>保全に関しては、甲府市、韮崎市、山梨市、富士市等の沿川地域を洪水から制御するため、上流山地の砂防、沿山工事と調整を図りつつ全川にわたり築堤及び土砂堆積箇所の掘削並びに水衝部等には護岸、水制を施工し、洪水の安全な流過を図る。また、内水被害の著しい箇所については内水排除の施設を施工する。</p>	<p>(2)河川の総合的な保全と利用に関する基本方針</p> <p>富士川水系では、洪水から貴重な生命・財産を守り、地域が安心して暮らせる社会基盤の形成を図るとともに、地域の個性と歴史・文化が実感できる川づくりを目指すため、治水・利水・環境にかかわる施策を総合的に展開する。</p> <p>このような考えのもとに、河川整備の現状、砂防・治山事業の実施状況、水害の発生状況、河川の利用状況（水産資源の保護及び漁業を含む）及び河川環境の保全・復元を考慮し、また、関連地域の社会経済情勢との調和や首都圏整備計画、中部圏開発整備計画、環境基本計画等との調整を図り、かつ、土地改良事業、下水道事業等の関連する事業及び既存の水利施設等の機能の維持を十分配慮して、水源から河口まで一貫した計画のもとに、段階的な整備を進めるに当たっての目標を明確にして、河川の総合的な保全と利用を図る。</p> <p>災害の発生の防止又は軽減に関しては、沿川地域を洪水から防御するため、堤防と河道の整備及び横断工作物等への適切な対応を行い、計画規模の洪水の安全な流下を図る。さらに河口部においては高潮による被害を防止する。また必要に応じて内水対策を実施する。なお、これらの整備に当たっては、急流河川である富士川の歴史的特性を踏まえ、伝統的治水工法の活用・保全を図るとともに、地震防災のため、耐震対策等を講じる。また、中流部では、関係自治体等と連携し、宅地嵩上げなどを含めた治水対策を実施するとともに、舟運時代の町並みの復元など川と一体となったまちづくりを支援する。</p> <p>あわせて、整備途上段階での施設能力以上の出水が発生した場合においても被害をできるだけ軽減できるよう必要に応じ対策を実施するとともに、計画規模を上回る洪水が発生した場合にも被害を極力抑えるよう努める。</p>



富士川水系工事実施基本計画と富士川水系河川整備基本方針（案）の比較表

富士川水系工事実施基本計画	富士川水系河川整備基本方針（案）
<p>利用に関しては、甲府市及び富士市等の沿川地域を始めとする都市用水及び流域内における農業用水の需要の増大に対処するため、水資源の広域的かつ合理的な利用の促進を図る。</p>	<p>さらに、洪水等の発生時の被害を極力抑えるため、水防活動との連携、ハザードマップ作成の支援等の情報提供、水防警報・洪水予報の充実、情報伝達体制及び警戒避難体制の充実、土地利用計画との調整、住まい方の工夫、越水しても被害を最小限にする対策及び防災教育等を関係機関や地域住民等と連携して推進する。</p> <p>また、支川及び本川上流区間については、本支川及び上下流間のバランスを考慮し、水系として一貫した河川整備を行う。</p> <p>河川水の利用に関しては、河川水及び河川水と関連の深い地下水の調査・研究を継続して行い、富士川の水量の実態を明らかにし、農業用水、発電用水及び地下水に依存している都市用水等を含め関係機関と連携して、流水の適正な利用が図られるよう努める。さらに、湯水等の被害を最小限に抑えるため、情報提供、情報伝達体制の整備及び利水者相互間の水融通の円滑化などを関係機関や地域住民等と連携して推進する。</p> <p>水質については、笛吹川等でBOD75%値が環境基準値を満足していない箇所があるため、下水道事業等と連携して、水質の改善を図る。</p> <p>河川環境の整備と保全に関しては、自然環境や河川の利用状況等について、今後とも定期的に調査を実施し、多様な動植物の生息・生育環境の保全に配慮する。特に上流部については、山間渓谷美に富んだ溪流環境に配慮するとともに、都市部では人と川とのふれあいを増進させるため、自然環境豊かな水辺空間の整備と保全に努め、また中流部については瀬と淵の保全に配慮する。下流部については川岸のマコモ、ヨシの群生等と調和を図り、河口部の干潟や濠筋の湿地環境の保全に努める。さらに、魚類が遡上しやすいよう流水の連続性の確保に努める。</p>

富士川水系工事実施基本計画と富士川水系河川整備基本方針（案）の比較表

富士川水系工事実施基本計画	富士川水系河川整備基本方針（案）
	<p>実施に当たっては、治水・利水との調和及び優れた景観の保全に努め、貴重なオープンスペースである水辺空間や河川敷利用など、多様なニーズに対し、信玄堤、万力林、雁堤等に代表される急流河川特有の伝統的治水施設を後世に継承するとともに、自然と共に生きてきた歴史や文化等の地域特性を踏まえ、高齢化社会にも配慮し、人々が川と触れ合い、親しめる河川の整備と保全を行う。</p> <p>富士川流域全体の健全な水循環系の構築を目指し、地下水利用の適正化、流域の水利用の合理化、下水道整備等を関係機関や地域住民と連携しながら流域一体となった取組を推進する。</p>

富士川水系工事実施基本計画と富士川水系河川整備基本方針（案）の比較表

富士川水系工事実施基本計画	富士川水系河川整備基本方針（案）
	<p>河川の維持管理に関しては、災害発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、河川が有する多面的機能を十分に発揮させるよう地域住民や関係機関と連携しながら適切に行う。特に、堤防、樋管等の河川管理施設については、常に良好な状態に保持しその機能を確保するよう維持修繕に努め、施設整備の進捗に併せて機能改善などを計画的に行うとともに、出水時の状況の的確な把握と情報提供などにより、迅速な対応に努める。また、洪水流下の阻害となる河川横断工作物や河道内の堆積土砂及び樹木等についても、適正に対処する。さらに、上流から河口及び海岸までの総合的な土砂管理に向け、関係機関と連携し、調査・研究を継続する。</p> <p>また、富士川流域のほとんどは「東海地震に係る地震防災対策強化地域」に指定されているため、復旧資機材の備蓄、情報の収集・伝達、復旧活動の拠点等を目的とする地域防災活動拠点及び輸送のための施設整備等を行うとともに、地域防災計画との整合を図り災害発生時の住民の安全な避難行動を支援する。</p> <p>流域の豊かな自然環境、地域の歴史・文化を踏まえ、魅力的で活力あふれる地域づくりの軸となる富士川とするため、上下流域の交流、河川清掃・河川愛護活動など地域住民が自主的に行う河川管理への幅広い参画等を支援するとともに、沿川の自治体が立案する地域計画との連携・調整を図りつつ、地域住民や関係機関等との協働による河川管理を推進する。また、河川に関する情報を幅広く提供するとともに、地域住民との対話を進め、地域住民の自発的な参加を促し、地域住民の川づくりの活動との連携・支援を促進する。</p>

富士川水系工事実施基本計画と富士川水系河川整備基本方針（案）の比較表

富士川水系工事実施基本計画	富士川水系河川整備基本方針（案）																												
<p>河川工事の実施の基本となるべき計画に関する事項</p> <p>(1)基本高水並びにその河道及び洪水調節ダムへの配分に関する事項 基本高水のピーク流量は、昭和34年8月12日洪水等の近年における出水の状況並びに流域の開発状況等を考慮し、降雨及び出水特性を解析した結果、基準地点清水端及び北松野において、それぞれ8,800<sup>m</sup><sup>3</sup>/sec及び16,600<sup>m</sup><sup>3</sup>/secとしこれを河道へ配分する。</p> <p style="text-align: center;">基本高水のピーク流量等一覧表</p> <table border="1" data-bbox="165 754 1037 1206"> <thead> <tr> <th>河川名</th> <th>基準地点</th> <th>基本高水のピーク流量 (<sup>m</sup><sup>3</sup>/sec)</th> <th>ダムによる調節流量 (<sup>m</sup><sup>3</sup>/sec)</th> <th>河道への配分流量 (<sup>m</sup><sup>3</sup>/sec)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">富士川</td> <td>清水端</td> <td>8,800</td> <td>0</td> <td>8,800</td> </tr> <tr> <td>北松野</td> <td>16,600</td> <td>0</td> <td>16,600</td> </tr> </tbody> </table>	河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 ( <sup>m</sup> <sup>3</sup> /sec)	ダムによる調節流量 ( <sup>m</sup> <sup>3</sup> /sec)	河道への配分流量 ( <sup>m</sup> <sup>3</sup> /sec)	富士川	清水端	8,800	0	8,800	北松野	16,600	0	16,600	<p>2.河川整備の基本となるべき事項</p> <p>(1)基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 基本高水は、昭和34年8月洪水、昭和57年8月洪水等の既往洪水について検討した結果、そのピーク流量を基準地点清水端及び北松野において、それぞれ8,800<sup>m</sup><sup>3</sup>/s及び16,600<sup>m</sup><sup>3</sup>/sとし、これを河道に配分する。</p> <p style="text-align: center;">基本高水のピーク流量等一覧表</p> <table border="1" data-bbox="1167 754 2038 1206"> <thead> <tr> <th>河川名</th> <th>基準地点</th> <th>基本高水のピーク流量 (<sup>m</sup><sup>3</sup>/s)</th> <th>洪水調節施設による調節流量 (<sup>m</sup><sup>3</sup>/s)</th> <th>河道への配分流量 (<sup>m</sup><sup>3</sup>/s)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">富士川</td> <td>清水端</td> <td>8,800</td> <td>0</td> <td>8,800</td> </tr> <tr> <td>北松野</td> <td>16,600</td> <td>0</td> <td>16,600</td> </tr> </tbody> </table>	河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 ( <sup>m</sup> <sup>3</sup> /s)	洪水調節施設による調節流量 ( <sup>m</sup> <sup>3</sup> /s)	河道への配分流量 ( <sup>m</sup> <sup>3</sup> /s)	富士川	清水端	8,800	0	8,800	北松野	16,600	0	16,600
河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 ( <sup>m</sup> <sup>3</sup> /sec)	ダムによる調節流量 ( <sup>m</sup> <sup>3</sup> /sec)	河道への配分流量 ( <sup>m</sup> <sup>3</sup> /sec)																									
富士川	清水端	8,800	0	8,800																									
	北松野	16,600	0	16,600																									
河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 ( <sup>m</sup> <sup>3</sup> /s)	洪水調節施設による調節流量 ( <sup>m</sup> <sup>3</sup> /s)	河道への配分流量 ( <sup>m</sup> <sup>3</sup> /s)																									
富士川	清水端	8,800	0	8,800																									
	北松野	16,600	0	16,600																									

富士川水系工事実施基本計画と富士川水系河川整備基本方針（案）の比較表

富士川水系工事実施基本計画	富士川水系河川整備基本方針（案）
<p>(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項</p> <p>イ、富士川                      計画高水流量は、船山において<math>1,700\text{m}^3/\text{sec}</math>とし、塩川、御勅使川の合流量を合わせ、浅原において、<math>4,000\text{m}^3/\text{sec}</math>とする。その下流では笛吹川の合流量を合わせ清水端において<math>8,800\text{m}^3/\text{sec}</math>とし、早川等の支川合流量及び残流域からの流入量を合わせ、北松野において<math>16,600\text{m}^3/\text{sec}</math>とし、河口まで同流量とする。</p> <p>ロ、笛吹川                      計画高水流量は亀甲橋において<math>1,600\text{m}^3/\text{sec}</math>とし、重川、日川、金川の合流量を合わせ、石和において<math>3,600\text{m}^3/\text{sec}</math>とし、さらに荒川、芦川等支川からの合流量及び残流域からの流入量を合わせ富士川合流点において<math>5,800\text{m}^3/\text{sec}</math>とする。</p> <p>図1 富士川水系基本高水流量配分図</p>	<p>(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項</p> <p>富士川の計画高水流量は、船山橋において<math>1,700\text{m}^3/\text{s}</math>とし、塩川の合流量を合わせ、浅原橋において、<math>4,000\text{m}^3/\text{s}</math>とする。その下流では笛吹川の合流量を合わせ清水端において<math>8,800\text{m}^3/\text{s}</math>とし、早川等の支川合流量及び残流域からの流入量を合わせ、北松野において<math>16,600\text{m}^3/\text{s}</math>とし、河口まで同流量とする。</p> <p>笛吹川の計画高水流量は亀甲橋において<math>1,600\text{m}^3/\text{s}</math>とし、支川の合流量を合わせ、石和において<math>3,600\text{m}^3/\text{s}</math>とする。その下流では芦川等の支川からの合流量及び残流域からの流入量を合わせ、富士川合流点において<math>5,800\text{m}^3/\text{s}</math>とする。</p> <p>富士川水系計画水流量図</p>

富士川水系工事実施基本計画と富士川水系河川整備基本方針（案）の比較表

富士川水系工事実施基本計画	富士川水系河川整備基本方針（案）																																																																				
<p>河川工事に関する事項                      (1) 主要な地点における計画高水位、計画横断形その河道計画に関する重要な事項                      イ．計画高水位                      本水系の主要な地点における計画高水位は次表の通りとする。</p> <p style="text-align: center;">主要な地点における計画高水位一覧表</p> <table border="1" data-bbox="190 694 1064 1316"> <thead> <tr> <th>河川名</th> <th>地点名</th> <th>河口又は合流点からの距離 (km)</th> <th>計画高水位 T.P(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">富士川</td> <td>船山橋</td> <td>河口から 83.7</td> <td>344.20</td> </tr> <tr> <td>浅原橋</td> <td>" 69.7</td> <td>255.71</td> </tr> <tr> <td>清水端</td> <td>" 60.9</td> <td>245.35</td> </tr> <tr> <td>南部</td> <td>" 29.8</td> <td>128.18</td> </tr> <tr> <td>北松野</td> <td>" 10.7</td> <td>52.19</td> </tr> <tr> <td>松岡</td> <td>" 3.8</td> <td>22.28</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">笛吹川</td> <td>亀甲橋</td> <td>富士川合流から 25.9</td> <td>348.22</td> </tr> <tr> <td>石和</td> <td>" 19.1</td> <td>270.97</td> </tr> <tr> <td>桃林橋</td> <td>" 4.8</td> <td>250.63</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">注) T.P.: 東京湾中等潮位</p>	河川名	地点名	河口又は合流点からの距離 (km)	計画高水位 T.P(m)	富士川	船山橋	河口から 83.7	344.20	浅原橋	" 69.7	255.71	清水端	" 60.9	245.35	南部	" 29.8	128.18	北松野	" 10.7	52.19	松岡	" 3.8	22.28	笛吹川	亀甲橋	富士川合流から 25.9	348.22	石和	" 19.1	270.97	桃林橋	" 4.8	250.63	<p>(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に関する事項</p> <p>本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は、次表のとおりとする。</p> <p style="text-align: center;">主要な地点における計画高水位及び川幅一覧</p> <table border="1" data-bbox="1137 694 2083 1225"> <thead> <tr> <th>河川名</th> <th>地点名</th> <th>河口又は合流からの距離 (km)</th> <th>計画高水位 (T.P.m)</th> <th>川幅 (m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">富士川</td> <td>船山橋</td> <td>河口から 83.7</td> <td>344.84</td> <td>310</td> </tr> <tr> <td>浅原橋</td> <td>" 69.7</td> <td>255.69</td> <td>420</td> </tr> <tr> <td>清水端</td> <td>" 60.9</td> <td>245.34</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td>北松野</td> <td>" 10.7</td> <td>52.10</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">笛吹川</td> <td>亀甲橋</td> <td>富士川合流から 25.9</td> <td>348.26</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>石和</td> <td>" 19.1</td> <td>271.01</td> <td>230</td> </tr> <tr> <td>桃林橋</td> <td>" 4.8</td> <td>250.61</td> <td>250</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">注) T.P.: 東京湾中等潮位</p>	河川名	地点名	河口又は合流からの距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	川幅 (m)	富士川	船山橋	河口から 83.7	344.84	310	浅原橋	" 69.7	255.69	420	清水端	" 60.9	245.34	150	北松野	" 10.7	52.10	160	笛吹川	亀甲橋	富士川合流から 25.9	348.26	110	石和	" 19.1	271.01	230	桃林橋	" 4.8	250.61	250
河川名	地点名	河口又は合流点からの距離 (km)	計画高水位 T.P(m)																																																																		
富士川	船山橋	河口から 83.7	344.20																																																																		
	浅原橋	" 69.7	255.71																																																																		
	清水端	" 60.9	245.35																																																																		
	南部	" 29.8	128.18																																																																		
	北松野	" 10.7	52.19																																																																		
	松岡	" 3.8	22.28																																																																		
笛吹川	亀甲橋	富士川合流から 25.9	348.22																																																																		
	石和	" 19.1	270.97																																																																		
	桃林橋	" 4.8	250.63																																																																		
河川名	地点名	河口又は合流からの距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	川幅 (m)																																																																	
富士川	船山橋	河口から 83.7	344.84	310																																																																	
	浅原橋	" 69.7	255.69	420																																																																	
	清水端	" 60.9	245.34	150																																																																	
	北松野	" 10.7	52.10	160																																																																	
笛吹川	亀甲橋	富士川合流から 25.9	348.26	110																																																																	
	石和	" 19.1	271.01	230																																																																	
	桃林橋	" 4.8	250.61	250																																																																	

富士川水系工事実施基本計画と富士川水系河川整備基本方針（案）の比較表

富士川水系工事実施基本計画	富士川水系河川整備基本方針（案）
<p>(3)主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項</p> <p>富士川における清水端から下流の北松野までの既得水利としては、農業用水として約<math>2.0\text{m}^3/\text{sec}</math>、工業用水として <math>7.7\text{m}^3/\text{sec}</math>のほか、富士川第二発電所において最大<math>75\text{m}^3/\text{sec}</math>を取水をしている。また、北松野から下流の既得水利としては農業用水として約<math>8.0\text{m}^3/\text{sec}</math>である。これに対し、清水端における過去10年間の平均濁水流量は<math>22.2\text{m}^3/\text{sec}</math>、平均低水流量は<math>31.9\text{m}^3/\text{sec}</math>であり、また北松野における近年10ヶ年の平均濁水流量は<math>6.1\text{m}^3/\text{sec}</math>平均低水流量は<math>9.8\text{m}^3/\text{sec}</math>である。</p> <p>流水の正常な維持するため必要な流量については、各支川の水収支及び河道の維持用水等について、さらに調査検討のうえ決定するものとする。</p>	<p>(4)主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項</p> <p>富士川における清水端地点から下流の北松野地点までの既得水利としては、農業用水として約<math>0.77\text{m}^3/\text{s}</math>、水道用水として<math>0.02\text{m}^3/\text{s}</math>、工業用水として<math>7.7\text{m}^3/\text{s}</math>のほか、富士川第二発電所において最大<math>75\text{m}^3/\text{s}</math>を取水をしている。また、北松野地点から下流の既得水利としては農業用水として約<math>1.1\text{m}^3/\text{s}</math>である。</p> <p>これに対し、清水端地点における過去30年間（昭和46年～平成12年）の平均濁水流量は約<math>25.1\text{m}^3/\text{s}</math>、平均低水流量は約<math>36.1\text{m}^3/\text{s}</math>であり、また北松野地点における過去30年間（昭和46年～平成12年）の平均濁水流量は約<math>8.5\text{m}^3/\text{s}</math>、平均低水流量は約<math>14.4\text{m}^3/\text{s}</math>である。</p> <p>流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関しては、河川及び流域における諸調査を踏まえ、水循環機構の実態を明らかにしたうえで決定する。</p>